



安
 晴
 明
 物
 語
 一
 代
 地
 一

2506
 7-1



13
2506
1-7

席

史^{せい}座^ざ人^{じん}の生^{せい}れ^れる^るが^がづ^づみ^みて^て秘^ひ般^{ぱん}あり^り字^じづ^づん^ん
智^ち恵^えの^のり^りき^きあ^ある^るは^はい^いく^く天^{てん}地^ちよ^よゆ^ゆづ^づり^り敷^{しき}
的^{てき}に^にう^うる^る可^か物^{ぶつ}よ^よう^うら^らく^く飛^とぶ^ぶの^のさ^さあ^ある^る乃^の理^り紙^し
ことり^{ことり}。神^{かみ}ま^まは^はの^のよ^よこ^こお^おら^らり^りと^と奇^きが^がら^らと^とて^ては^は
と^とあり^りる^ると^とや^やて^て後^ごよ^よ通^{つう}じ^じと^とて^て乾^{かん}坤^{こん}の^のる^るよ^よ
そ^そが^がふ^ふし^しま^まし^しぶ^ぶと^とり^りく^く可^か物^{ぶつ}の^のあ^あひ^ひご^ごら^らま^まら^らと^と
し^しま^まし^しぶ^ぶら^らと^とせ^せら^らん^んの^のこ^こを^をほ^ほつ^つて^てめ^めく^くして^{して}ん^んが^が
し^しま^まし^しぶ^ぶら^らと^とは^は揚^{やう}舟^{しゅう}り^りと^とん^んや^やあ^あら^らと^と理^りま^まら^ら
つ^つて^ては^はま^まよ^よ奇^きあ^あり^りと^とさ^さを^をれ^れば^ばな^なぐ^ぐゆ^ゆど^どひ^ひよ^よま^まの^の
こ^こを^を雲^{うみ}の^のじ^じし^しば^ばあ^あら^らと^と地^ち乃^のの^のあ^あひ^ひご^ごら^らま^まら^らと^とあ^あら^らと^と



一 此の理はたがふと云ふてくらしき事なほ今れは
 二 此の理はたがふと云ふてくらしき事なほ今れは
 三 此の理はたがふと云ふてくらしき事なほ今れは
 四 此の理はたがふと云ふてくらしき事なほ今れは
 五 此の理はたがふと云ふてくらしき事なほ今れは
 六 此の理はたがふと云ふてくらしき事なほ今れは

安倍晴明記中一頁録

- 一 うつろい松元のみ事
- 二 物道上人のみ事
- 三 安倍仲麻呂入唐のみ事
- 四 吉備大臣入唐のみ事 并 教王の事
- 五 吉備大臣入唐のみ事
- 六 吉備大臣入唐のみ事 并 吉備の事



安倍晴明記

ト北極星の事

といふに北極星の事。まゝに云はれに佛
 在世よりみよ余年のうらたよ。中土竺乃菴は
 羅刹の神ふ。まゝに相好殿の大地のり。その
 名と鶏田の神と名づく。うらた地乃事と云ふは
 大梵天よりまゝに云はれし事なり。こゝより西
 流の典書なり。まゝに云はれし日月星辰海山等も
 此の西風雲等なり。いふにみよ北極星の事と云
 ふ事なり。所記多神なり。て釋尊のいままゝに
 て七葉あり。あひし。時はよけぬ。あつて。

この天冠はようこそとておのちの天冠ふつて
まじりておのちの天冠ふつておのちの天冠
よそののちの天冠ふつておのちの天冠
おのちの天冠ふつておのちの天冠
この天冠ふつておのちの天冠
おのちの天冠ふつておのちの天冠

伯道と人の事

ひまを唐国乃代よあつて。唐乃城荊山の洞
のわ。伯道の人のわりのの洞のわりのの洞

そのつてのつてのつてのつてのつてのつて
あるつてのつてのつてのつてのつてのつて
地よあつて又を唐国乃代よあつて。唐乃城荊山の洞
にこのつてのつてのつてのつてのつてのつて
とぞ。唐乃城荊山の洞のつてのつてのつてのつて
て天地は海なり。唐乃城荊山の洞のつてのつて
あひまのつてのつてのつてのつてのつてのつて
本をげつて月日星乃代。唐乃城荊山の洞のつて
先が。唐乃城荊山の洞のつてのつてのつてのつて
あつて。唐乃城荊山の洞のつてのつてのつてのつて
は。唐乃城荊山の洞のつてのつてのつてのつてのつて

唐乃城荊山の洞

唐乃城荊山の洞

結いふ事よ一人責みのりてあり信乃と今より
ふらふ事よそいふとんかいつありあゝあまのりくぬ
風わつた海らまだらひてたりまはやくとど人を
あていふとこれ地乃あひびきよかどにまぐら
よと地の理り電よふあはして乾坤海湯の理り
日星乃あがりとささりあさる老んためふ何あおこ
れらる海らまういひきききらういひまはらあは
りされいひの事よまどうのてまよらひての
たまりの中とささりしして陰陽乃約とささる
あゝの廣と遠極神一はうとささる海とささる海とさ
るてはよ探さして天文地理とささるあゝの海とさ

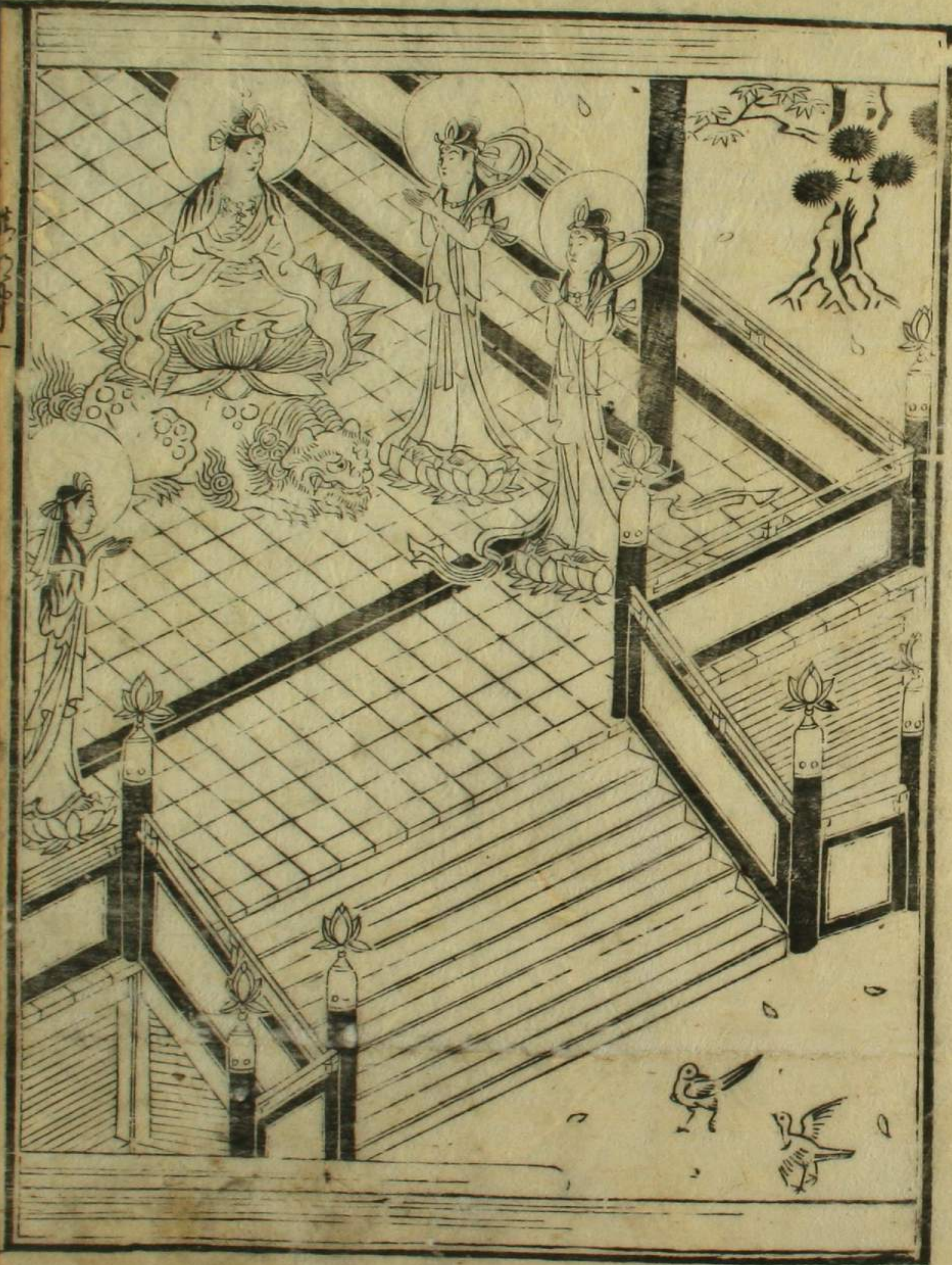
いふ事よさうかきぼくもぐらうみさういふ事よ
智人さうなれその海とささりふいふ事よ
神信よあゝとささるいふ事よあゝとささるいふ事よ
まの信乃とねとやしてさあのもしかりの袖うを合を
ていふと縁がつくさ事よあゝとささるこれ我み信
理とささるあゝとささるいふ事よ海事よたさまう
あゝ一理乃秘術ありとねとささるいふ事よあゝと
星山よりあゝとささるいふ事よあゝとささるいふ事よ
あゝとささる事よとささるいふ事よあゝとささるいふ事よ
まはけ事よいふ事よとささるいふ事よあゝとささるいふ事よ
ろとあゝとささるいふ事よ



此巻のりりつさつごめことめことめんめがしん殿の
きふららまはわりのまよふかりみりみりて推
ふに思しと岩より谷にうりのゆきぞもだご水邊の
さづきて名のおまごにのみち也山あふく入るる
れいあざらりまのあまのまももさくふんさく世
界よへんあれらる事りやうあやま島乃ら
るりつしししさりつて此の介よめ得てえりて
まやとらふあはる命をさくさくあつて他
乃と人かえぬのまもとらふてあまらつてえりて
うりあくあつてさつていれは福徳の比りいハ瀬の
つらとらふてあはるの樹の花よれ実よりけりてあ

七亥の梅門あり門のとりいふ甚むしと歌とくけさ
 こも内よまゝ入られど富高梅家ままにけで園の覺
 空ふあつれぬぬらうづりそびららるゝ瑞瑞の尾馬
 恐乃棄來其合のまぎし車驟のまごま城瑞の
 垣のりくろいハ梅標まふひひ意トト七亥乃池の中
 ぬは甲をれ置わさやうふひくき行のころあは黄
 壺乃つさごのまは白鶴孔雀かまうびんがぬえれを
 あびてさえつらるるあうらとあころそなりまうんまの
 内わは七亥花教のゆみたのまよま聖文録あそ
 まん百子のりまふいむる庭のまきあまふまふ
 捨承世界まうやとたほへ踏揚ありまう何伯たま

ぬのまをあまをあまをまにれぬきま
 んとゆゆかそぬぐ羅いど人むむひたふ
 一日一秋若うら天地陰陽六幼かまことりんと
 きたあそ一ゆふ上人うまうとん地ひしを羅羅果と
 ことり海力とゆてゆあそちりぞま一付のる
 この菊園浮花と免らりるもあゆま山と海川の
 こそとまご名留ままごめらりけむりとの荆山のか
 倉りまんとゆ乃鏡つさへたまをらり唐典易典の
 如符典百六甲甚とまろしげ中ふら地陰陽日月
 墨後ま若画行揚か符の事あゆまひま西の
 とくくしといまやめららふくくしねさ免ひそく



こまことちからまうりつてそのうちうたがきよつて家
 とらぬらうりちやうめり海をいよほくられたこの人うら
 稀くせりひらぬに孔安公何ふ云ふとくは
 うりそりうこそとほくしきりばゆり易さ
 りとぬとぬりうとくぞすぶがうりもわくことや
 伯たの仙人とあり又其のよかうして文殊の眷属に
 ありゆめいぬよかの百六十巻の書は隆の武帝
 ありうると東の朝にもとあひりむそうにうら
 奇物の中北といつてうらうや。こまよつ井うら
 仙人とありしひらぬよけ書乃ちうら也

安倍仲磨入道の事

あらうりは書の日記よつてうらうまへと乃うと元
 正天のうらうお安倍仲磨といふ命ありそのえ
 祖の存えをうらうのい子をうら命のほ流金福慶の
 あはれりて中務を備ふに位と安倍朝御が子也情
 字を智乃のうらうれまなれは其後二年八月廿うら
 り遺座候とありとあらうにありぬとらに仲
 磨の榮感星といふ星れあ身ありいり隆の武
 の時榮感星ありとあらうに東の朝のあり帝のま
 つりごととたとげしてゆりうらうと仲磨も日記の
 うらうととぬとけぬとたぬとぬとぬとぬとぬとぬ



月夜
 月夜に坐して日暮ふゆきいたるに梅窓のあを
 なさしらのつがらうあつとほひ日暮よのり
 まくがあつとほひとつがらうあつとほひ
 とつがらう

あまの原ありけりれいま白たし
 こころの山ありて月を

とうとうつがらうあつとほひ日暮よのり
 うの月影とてに影とほひとつがらうあつとほひ
 うの影とてに影とほひとつがらうあつとほひ

吉備大臣入唐付殿よみて基をうらひす
 その年の年元正天白皇飛三年養老元年乃林八月
 の終て吉備大臣とすけて遺唐使となさん
 りしふりこ一治の唐あねまの皇帝開元
 年あり。志るるにりろごの元ごの吉備大臣
 面ありしに沙網物乃らまきますと大よの唐
 里これ日本此皇勝とらむの越い吉備大臣もらむと
 唐したしとまを智とためして智唐乃らむと
 志あつてゆうして日本ふゆと下ごらむあつて
 唐しとそと海く智唐とあふんされり。まけ
 中一よの唐基といふのいまごと日本よらむと

備の大臣あつては、こをてあつては、
 りとて一とらむその飛と唐明とはられま
 奇物乃らありりらととらむと唐のありて
 りくまるとの飛皇皇つて吉備大臣のありて
 りのりてゆくと飛はられし唐使とて唐の
 備神唐ありりて一日日本ふりふりゆり唐の
 柳宮のとあつては、唐のありて唐の
 りては、唐のありては、唐のありては、
 鬼とありりて唐のありて唐のありては、
 けらるるに唐のありて唐のありては、



暮をういどころをかんきくむらにちりそのおれ成
 りまゝまゝくらの宿おりくりにて転乃あゝまどる
 ありぬ明りきりて船とく先とれ^{てんやう}南とねな
 り一あ暮とくさくあくう^{てんやう}首ゆふ二あうち
 勝治ふ天子とくド先とてうりて感^たあなる
 しみこりか

吉徳と文徳と

天子又合致ありては、吉徳いまだ、梁の昭の如きもの
作らるる、乃又徳とあるが、ついでに、先づ、徳とあり。う
先づ、徳とあり。ついでに、昭の如きもの文徳とあり。海
一先づ、徳とあり。ついでに、昭の如きもの文徳とあり。海
さ、海とあり。ついでに、昭の如きもの文徳とあり。海
別あり。徳とあり。ついでに、昭の如きもの文徳とあり。海
うとあり。ついでに、昭の如きもの文徳とあり。海
らとあり。ついでに、昭の如きもの文徳とあり。海
い。ついでに、昭の如きもの文徳とあり。海

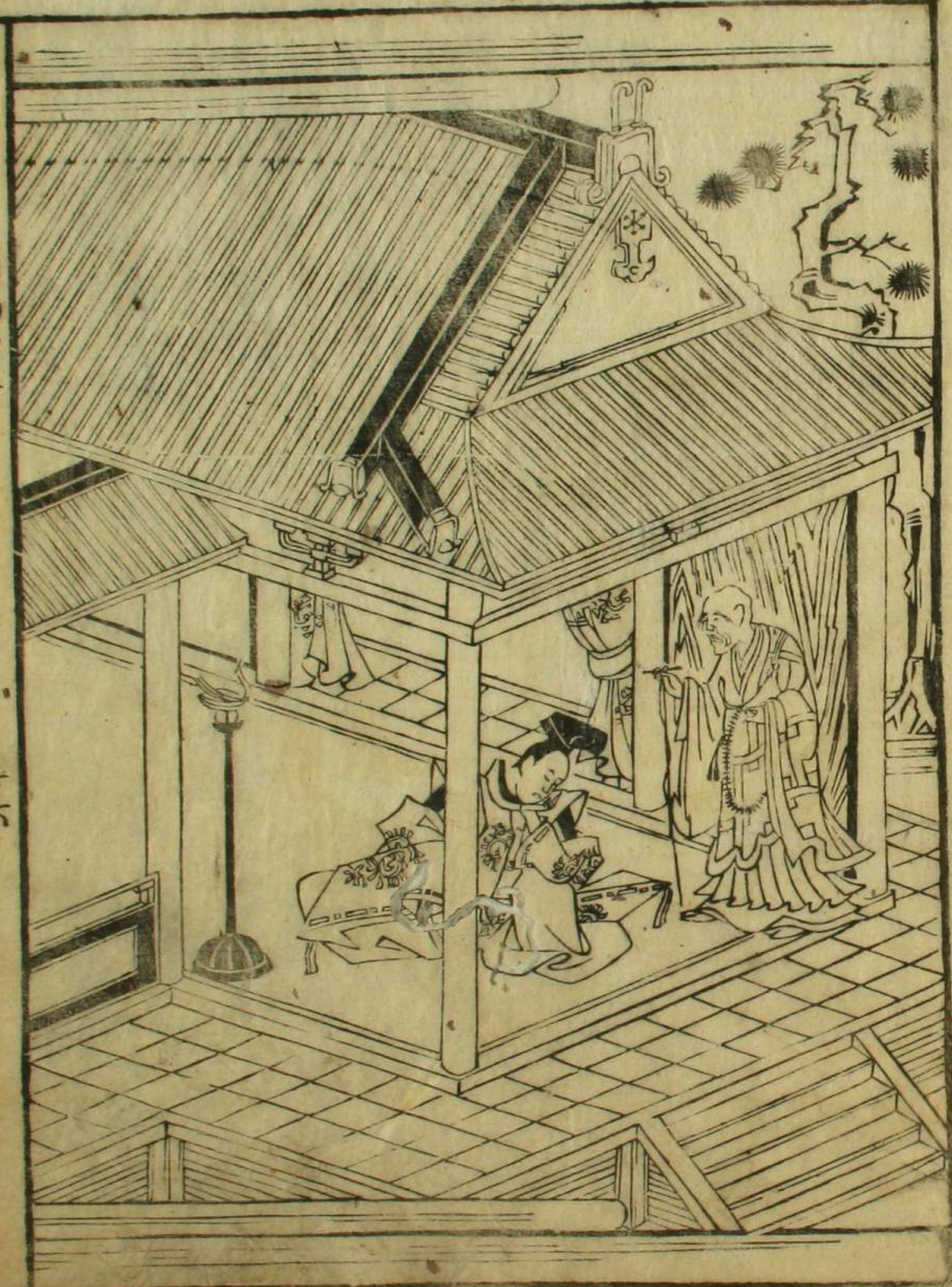
く、昭の如きもの文徳とあり。海
吉徳とあり。ついでに、昭の如きもの文徳とあり。海
文は、昭の如きもの文徳とあり。海
とあり。ついでに、昭の如きもの文徳とあり。海
ぬ、昭の如きもの文徳とあり。海
も、昭の如きもの文徳とあり。海
い、昭の如きもの文徳とあり。海
實徳、昭の如きもの文徳とあり。海

きいしひやういひしうあふさうしん天子ためしついで
らうをひらぎ代々^い終つて天下よたゞ一人のこ
しむすいさまりそ乃又いふふ十二款百二十字を
まばざらひつめ一冊ふためでせむとてこごと文法
乱^{らん}約^{ぎやく}らあめてがらまゆらふそれいふはまほむら
さうひらむとて海^{うみ}の^{うみ}あふ^{あふ}す^すは^はし^しわ^わら^らは^はら^ら
と千とのあふ結^{むす}下^さとらく一同は合^{あは}後^ごわ^わひ^ひき^きう^う海
は^はは^は乃^のあ^あふ^ふま^まと^とを^をゆ^ゆを^をら^らま^まな^なれ^れど^ど又^又あ^あは^あを^をあ^あり
て古^{ふる}海^{うみ}を^をい^いま^まや^やう^う表^{あらわ}あ^あけ^けお^おい^いだ^だあ^あん^んら^らと^と林^{りん}中^{ちゆう}
おの^のて^て表^{あらわ}志^し和^わあ^あの^のま^ま事^{こと}紀^きの^の織^{おり}文^{ぶん}聖^{せい}る^る聖^{せい}の^の約^{やく}と
ふあ^のい^のう^う海^{うみ}を^をら^られ^れん^んと^と合^あ後^ごわ^わり^りら^らい^いは^はら^らで^でお^おは^はる^る
あうしんちゆう
まら
きんせん
せいせい
ちゆう
あつ
ちゆう
ちゆう

事あてばまよごいよむ人あ。やんや。あんらいら
うじよかいるまよごいよむ人あ。やんや。あんらいら
まよご—我^{われ}い^いら^らあ^あし^して^てよ^よ海^{うみ}を^をい^いま^まと^と表^{あらわ}あ^あふ^ふま^まを^をい^いま^ま
は^は我^{われ}ら^らの^のい^いま^まを^をい^いま^まと^と表^{あらわ}あ^あふ^ふま^まを^をい^いま^ま
り^り初^{はつ}理^りと^とま^ま—と^と表^{あらわ}あ^あふ^ふま^まを^をい^いま^ま
お^おい^いら^らい^いま^まを^をい^いま^まと^と表^{あらわ}あ^あふ^ふま^まを^をい^いま^ま
こ^こい^いま^まを^をい^いま^まと^と表^{あらわ}あ^あふ^ふま^まを^をい^いま^ま
解^{くわ}し^して^て序^{しよ}を^をい^いま^まと^と表^{あらわ}あ^あふ^ふま^まを^をい^いま^ま
い^いま^まを^をい^いま^まと^と表^{あらわ}あ^あふ^ふま^まを^をい^いま^ま
だ^だ海^{うみ}を^をい^いま^まと^と表^{あらわ}あ^あふ^ふま^まを^をい^いま^ま
お^おい^いま^まを^をい^いま^まと^と表^{あらわ}あ^あふ^ふま^まを^をい^いま^ま

うらむじひ。古倫云々。年一り。大和を去。若の親を
と修。一。事。事。地。志。ま。う。り。一。は。た。か。う。り。と。合
と。一。心。よ。南。云。大。慈。大。悲。の。親。世。言。が。う。り。ま。は。け。う。ひ
地。云。う。命。と。と。と。に。御。心。派。乃。鬼。と。あ。ら。ん。と。は。縁
か。り。く。る。御。心。の。と。と。と。て。わ。が。命。と。と。す。ま。う。う。い。ま。ん。ふ
ふ。と。と。と。う。ひ。あ。ん。と。丹。練。と。は。く。して。神。撰。し。ま。な。り。を
ま。ご。あ。り。ま。け。う。と。う。り。ま。お。体。乃。親。世。言。と。け。と。い。や
う。の。親。練。は。ま。ご。う。り。地。の。つ。ま。よ。と。う。り。あ。ん。ふ。八。旬。を
う。り。れ。親。信。ま。う。う。り。ま。ご。あ。ひ。て。の。こ。う。り。く。我
は。一。心。大。日。弁。大。和。を。去。若。若。の。親。世。言。也。御。心。の。あ。ん
が。遣。た。は。と。あ。り。げ。た。な。ま。よ。ま。あ。り。お。智。と。た。め。ま。り。

申さば。い。の。り。う。ま。ん。の。一。文。指。さ。る。ま。の。織。文。と。よ
ま。う。り。ま。と。と。ら。は。ま。ま。と。ま。り。と。那。お。あ。り。む。し。ひ。ん
ま。統。あ。り。あ。ん。ら。い。う。で。う。り。ま。ご。あ。ひ。て。の。こ。う。り。く。我
は。一。心。大。日。弁。大。和。を。去。若。若。の。親。世。言。也。御。心。の。あ。ん
が。遣。た。は。と。あ。り。げ。た。な。ま。よ。ま。あ。り。お。智。と。た。め。ま。り。



市の舟一

十一

乃つこころつきてしるじべしとおくまににけり
 てゆかみはまかりらさ免るるなり。若^い備^いえゆかみ
 免^まるる^る新^{しん}社^ざかみあまごさるる^るて^てあ^あく^くらん^{らん}人
 と^と結^{むす}念^{ねん}し^しま^まる^るらん^{らん}家^か

市舟一

十一

忠告も親者の事付はた仙人の事、
 ちよと親物も忠告の親者、
 と皇の御親はた仙人の建立せられ、
 これを皇の人のあり、
 のうりよ仙人位下の親あり、
 め身乃親はた皇をたてぬら、
 て、
 吾もあり、
 一、
 事乃播磨の皇、
 の皇へよとせられ、

千年の親者の像と信金、
 臣介、
 終上、
 元より、
 世乃人、
 大仙、
 上の来、
 神と、
 皇と、
 子、
 石の来、

願のつまそそぶがこしに散井たまにまゝとりてついで
他人乃常りよありてさゆいよびとてせしむる
仙人たよらひてゆるし路よま又りてついで
とびよりえきまきりて只一儀にらこふと粟料を
まふとこの世までも未だ村と名づゆ。又いま回りて
散井の初めのありては事とさうらんやとんを海
望まよ事^{まじ}物^{もの}乃^のまよ^ま歳^{とし}款^{かん}あり。はあてさあ年
よ天^{あま}望^{もち}は^は恒^{とこ}ありと^とけ^けた^た仙^{せん}人^{にん}持^ぢ念^{ねん}を^をら^られ^れは^はお
かて^かと^とこ^こま^また^たり^りし^しま^まら^らり^りと^とま^まら^らり^りと^とま^まら^らり^り
ふ^ふ何^{なに}を^をほ^ほく^くら^ら先^{せん}知^ちる^るの^の徳^{とく}と^と安^{あん}持^ぢあり^りま^まら^らり^り
と^と数^{かず}十^{じゅう}の^のと^と経^{けい}て^ては^はた^た仙^{せん}人^{にん}今^{いま}ま^まま^まい^いと^とらの^の記^き事^じの

本傳とつものまらんとて。法方とめらりてさうひらる。家
よを^をの^のま^まの^の流^{りゅう}初^{しつ}三^{さん}尾^び流^{りゅう}とい^いま^まと^とり^り。若^わし^しは^はあり
て^てい^いが^がら^らり^り乃^の橋^{はし}の^の本^{ほん}流^{りゅう}出^でたり^り。ち^ちる^る乃^の橋^{はし}あり^り。よ^よま^まの^の流^{りゅう}
ま^まら^らり^り亦^{また}よ^よは^はち^ちる^る乃^の橋^{はし}初^{しつ}の^の時^{とき}の^のま^まら^らり^りは^はま^まら^らり^り
う^うら^らり^りは^はま^まら^らり^りと^とわ^わ初^{しつ}乃^の下^げ初^{しつ}わ^わの^のま^まら^らり^りは^はま^まら^らり^り
事^{こと}と^とま^まら^らり^りい^いつ^つの^のゆ^ゆも^もま^まら^らり^りと^とま^まら^らり^りと^とま^まら^らり^り
の^のと^とめ^めて^てす^すの^の面^{めん}貌^{ぼう}を^をほ^ほく^くら^らり^りと^とま^まら^らり^りと^とま^まら^らり^り
こ^こに^にめ^めて^てら^らり^りに^にま^まら^らり^りと^とま^まら^らり^りと^とま^まら^らり^り
ま^まら^らり^りと^とま^まら^らり^りと^とま^まら^らり^りと^とま^まら^らり^り
う^うと^と板^{いた}の^のま^まら^らり^りと^とま^まら^らり^りと^とま^まら^らり^り
け^けと^とま^まら^らり^りと^とま^まら^らり^りと^とま^まら^らり^り



新編一

十九

利
 らはてして世のつらき事ありては
 細い糸の如くは報いられぬ事ありて
 その事しむるは八十餘年と云ふ事ありて
 村にあり又疫病の如くはわらわらばいふ事ありて
 とて村中をばとあはれぬ事ありて

あつにほたつ人ば本よりそこれ君本ありとて切符と
あまの十三年の辰替るに動替る云とつふは現の如
所まわりのて沙長二丈云尺の十一面観音とほくると
なりはさそいつがあより安重ととくきとりのふあより
あふ合るこの人あつてつとくば山の山の雲かろるの
君よ大かろるあつてそ面たつとくかして鏡のこくとく
よ方八尺の揚揚石ありこれ大也かまの乃鏡云と
して結天の音神竜神八龍鏡と帝杖とてみるあ
は申りてはさりありあつてさそと振出とと一とては道
大まにようつとびつとつらつとみまにぬぐらつて観音と
風輪界よ根とつら。金輪際より生れあつてあまの

114 115
114 115

